

「子どもが多いほど保育料が値上がりした問題」を追及 第53回ギャラクシー賞報道活動部門に入賞 HTBの調査報道が自治体を動かす

HTBは、2015年10月から「子どもが多いほど保育料が値上がりした問題」を追及取材した一連の報道で、第53回ギャラクシー賞報道活動部門に入賞しました。

これは、2013年5月から取り組み今も継続している詐欺撲滅キャンペーン「今そこにある詐欺」が、第52回ギャラクシー賞報道活動部門の選奨を受賞、2年度連続の入賞となります。今回のギャラクシー賞報道活動部門には、HTBを含め6本が入賞しており、その中から大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選定され、6月2日(木)に東京で行われる贈賞式で発表される予定です。

【入賞企画】

- ・夕方の情報番組「イチオシ！」ニュース内で放送したシリーズ10回に及ぶ調査報道
- ・テレビ朝日系列で全国放送された30分のドキュメンタリー番組「テレメンタリー2016 ママの悲鳴～少子化対策 “逆行” 制度～」の制作(テレビ朝日2016年2月22日放送)

保険料が値上がりした家庭の実態や札幌市・北海道など自治体トップの動きを伝えました。こうした一連の報道活動により、当初「対応は考えていない」としていた札幌市の対策改善や、道内市町村の助成金が予算案に盛り込まれるなどの自治体を動かす報道活動の成果が出ました。

【入賞した報道活動の内容】

少子化の問題が深刻だ。それにもかかわらず札幌市で去年9月、子どもが多い家庭ほど「保育料」が値上がりした。「子育て支援」の新制度によるものだ。保育料は年収に応じて決まり、18歳未満の子ども1人につき38万円が控除されてきたが、新制度では子ども3人以上でも「2人分」で計算されることになったのだ。保育料の徴収は自治体。対応は全国の市町村でまちまちで、札幌では月3万円も保育料がアップした家庭もあった。「これは少子化対策に逆行している」。国と自治体による少子化対策の矛盾を追及し続けた。

【ギャラクシー賞とは】

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、優秀番組・個人・団体を顕彰するために、1963年に創設。審査は放送批評懇談会会員から選ばれた選奨事業委員会が担当し、賞の決定を第三者に委託する顕彰制度が多いなか、放送批評懇談会の会員が一貫して審査にあたり、賞の独立性を維持しつづけている。現在、ギャラクシー賞はテレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門制をとり、毎年4月1日から翌年3月31日を審査対象期間と定め、年間の賞を選び出しています。